

リボンでつながる「今日の「食」」 地域で支えるフードリボンプロジェクト

みんなの思いを「一食」の支援につなげるフードリボンプロジェクトが始まりました。子どもたちが安心して食事を取り、地域とつながる居場所づくりを、市民・飲食店・行政が一体となって進めます。

問 子育て応援課家庭支援係（フラザけやき内）35-0914

子どもを取り巻く課題

子どもの貧困や児童虐待、ヤングケアラーなど、子ども・若者を取り巻く課題は多様化・複雑化しています。厚生労働省が公表した「令和7年国民生活基礎調査」によると、全国の17歳以下の子どもの貧困率は11.0%で、およそ9人に1人とされています。一人ひとりの状況に応じた、切れ目のない支援が全国的に求められています。

菊川市の現状と取り組み

こうした状況は、菊川市も例外ではありません。令和5年度に実施した「子どもの生活状況調査」において、小学5年生と中学2年生の保護者を対象に行ったアンケートによると、「食料（嗜好品を含まない）」が少しでも買えない時があった」と回答した世帯の割合は、貧困世帯では41.8%にのぼることが分かりました。

経済的な理由で日々の食事に困っている子どもたちが、「今日の「食」」に困ることなく、安心して過ごせる居場所を確保することが必要です。

市は、令和7年3月に策定した「菊川市こども計画」において、子どもの貧困の解消に向けた対策に取り組むこととしています。

みんなの思いを食事の支援へ

この現状に対する具体的な取り組みとして、市は一般社団法人ロングスプーン協会と連携し、「フードリボンプロジェクト」を開始しました。

これは、飲食店を利用する人が購入した「リボン」を通じて、地域の子どもたちに食事と安心できる居場所を届ける仕組みです。「子どもたちのために何かしたい」という地域の皆さんの思いを飲食店が預かり、支援を必要とする子どもたちの食事へとつなげます。